



全標協広報

2018 11
NO. 335

○西ブロック内支部長・県協会長会議の結果 …	1
○道路標識点検診断士研修合格者名簿 ……	5
○大阪府知事への要望活動 ……	6
○「優秀施工者国土交通大臣顕彰」 「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰」 …	7
○路面標示ハンドブック等の改訂版を発刊 ……	7
○北欧（フィンランド・ノルウェー）の旅 ……	8
○お知らせ ……	12

ご意見をお寄せ下さい！ Eメール：soumu@zenhyokyo.or.jp

「トラフィックサポーター」は、ホームページではカラー版でご覧いただけます

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19 にしかビル3F (一社)全国道路標識・標示業協会 TEL 03-3262-0836 ホームページ：http://www.zenhyokyo.or.jp/

平成30年度西ブロック内支部長・県協会長会議の開催結果について

全標協中部支部事務局長 岡山 雄一

平成30年度西ブロック内支部長・県協会長会議が、10月11日、天候にも恵まれ、名古屋市内において開催されました。



開催を担当いたしました中部支部より会議の概要について報告いたします。

1 会議の概要

- (1) 開催日時
平成30年10月11日（木）午後2時から
- (2) 開催場所
名鉄グランドホテル（名古屋市中村区）
- (3) 出席者
合計 73名
 - ・全標協本部 清水修一会長以下27名
 - ・関西支部 平野好昭支部長以下9名
 - ・中国支部 宮川裕正支部長以下8名
 - ・四国協会 東久雄会長以下5名
 - ・九州協会 今別府英樹会長以下8名
 - ・沖縄協会 安里浩会長
 - ・関東支部 神戸康弘支部長（オブザーバー）
 - ・中部支部 前山達彦支部長以下14名

2 会議の内容

本会議は中部支部三浦紳太郎副支部長の司会によ

り開始されました。

(1) 清水会長あいさつ（要旨）

皆さん、大変お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。

今日は5月の総会以来の会議でありますから、最近の話題についてお話させていただきます。

国交省、警察庁で8月に人事異動があり、警察庁では交通局長、交通規制課長が替われ、我々三役がご挨拶に伺いました。その席で、黄色塗料の鉛クロムフリーが全面的採用になった場合は、通常の事業量ですと6割か7割しかできないであろうという話をさせていただき、その後、笠原専務理事や標示委員会の方で対応していただき、鉛クロムフリーの資料を出させていただきました。

私がお挨拶に行ったときに、警察の標識、標示の予算というのは県単独事業であるので、各県の知事に対し、しっかりお願いをするように警察庁の方から本部長、交通部長に言ってくださいとお願いをしたところであります。

国交省の方も多くの方が異動になり、大変心強い布陣になったと感じておりますので、要望活動をしっかりやっていきたいと思っております。

次に道路標識点検診断士研修についてですが、9月に5日間かけて研修会を行いました。本部としては、この資格を国交省技術者資格として認定してもらおうべく、12月の認定資格登録に向けて作業を進めております。

国交省との勉強会は、今月の3日（今回で4回目になります。）、標識に特化した形で、ナンバリング標識の整備状況、道路標識のメンテナンスについてお話をさせていただきました。

また、11月7日には自民党本部におきまして、今年3月に続いて通算4回目の議員懇談会を開催する予定です。各支部長さんにもご都合のつく方は出席していただきたいと案内を出していますが、そういった会合をしっかり見ていただき、各地の皆さん

に伝達していただきたいと考えております。懇談会には自民党二階幹事長、竹下亘先生、林幹雄先生らが出られます。国交省は道路局長、警察庁は交通局長が出席されますので、予算の獲得に向けて今までよりももう一步突っ込んだところでお願いをしていきたいと思っていますところでは。

このようなことが最近の動きということで、皆さんのご理解をいただければありがたいです。

(2) 前山中部支部長あいさつ (要旨)



今年は中部支部が準備を進めさせていただきましたが、本日このように盛大に開催できたことに心より感謝申し上げます。

この名古屋には、ご存知のようにトヨタ自動車があり、自動車産業、機械産業、セラミック、飛行機又はロケット産業など製造業が大変活発であります。最近「名古屋めし」というものがマスコミで話題になっておりまして、「ひつまぶし、味噌煮込みうどん、きしめん、あんかけスパゲティ」などの食文化も是非ご堪能いただければと思います。

さて東京オリンピック、パラリンピックも2年を切りました。首都圏では標識、標示につき、かなりの工事が発注されていると聞いております。しかしながらこの西ブロックの各地域においては相変わらず予算不足による発注の抑制が続いており、冷え込んでいると感じています。職場においては、高齢化、人手不足が大きな問題となっています。

本日は仕事作り、人作りの課題について本部のご指導を仰ぎながら成果のある会議にしたいと思っています。

続いて前山中部支部長が議長となり、会議が進行しました。

(3) 本部提出議題

ア 路面標示用塗料JIS K-5665 2018改正について

笠原孝志専務理事から「JIS規格が本年の8月20日に改正、公示され、路面標示塗料の品質が改正された。これまでは鉛クロムを含むもの、鉛クロムフリーのものどちらを使用してもよ

かったが、来年4月1日からは鉛クロムフリーのもののみを使用することとなる。鉛クロムフリー塗料に移行することによる単価の上昇は、東京の場合、材料単価が1.8倍、他の材料費、施工費を含めると約1.3倍になることから、警察庁や国交省に対して必要な量を発注するための予算確保を要望している。」との説明がありました。

イ 基幹技能者講習修了者の主任技術者認定及び基幹技能者講習の実施状況について

伊藤清志専務理事からは、「昨年、建設業法施行規則の改正で、基幹技能者講習修了者に新たに主任技術者資格を付与することとされたことから、本年度以降の基幹技能者講習修了者は全て主任技術者の認定が行われる。なお、平成29年度以前の講習修了者にはこの適用がないので、本人による修了証再交付申請によって主任技術者資格の取得を可能としているが、この場合、工事实務経験10年、職長経験3年以上が必要である。これらが確認できれば、主任技術者として認定される。今年度は54名の方が資格を取得し、その中には新しく発足した道路標識点検診断士を受講した方がいる。本年度第1回の基幹技能者講習は、標識45名中36名が合格、路面標示72名中62名が合格となっている。最近、標識の受講者数が減少傾向で、今後、年2回の講習回数を1回に見直すなどの検討も必要となってくる。この基幹技能者は当業界の中核をなすものであり、ぜひ受講を促してほしい。」との説明がありました。

ウ 道路標識点検診断士研修の実施状況

伊藤専務理事から、道路標識点検診断士研修の実施結果について、「これまでの設置診断士を発展的に解消して、本年度から新たな研修として実施したものである。今回の受講者は48名で、受講資格別では、1級土木施工管理技士が40名、主任技術者が8名だった。可否については、今回、審査委員会で行い、31名の方が合格している。なお、当該技術者資格の国交省への認可申請は、12月上旬頃行う予定である。」との説明がありました。

(4) 支部提出議題

ア 平成29年度近畿地方整備局との勉強会について (関西支部)

落合鉄也標識副委員長から、平成29年10月に開催された勉強会における、「道路附属物(道路標識、照明)の点検方法(超音波診断による非破壊検査)、高速道路のナンバリング(一般道の108系標識等への併用標記の方法)、自動車専用道路の逆走対策(対策案と実施事例)、長寿命標識(広角プリズム型標識)」の4議題に

ついて説明がありました。

イ 平成30年度近畿地方整備局との勉強会について(関西支部)

天野達也標識委員長から、今年度の開催日(11月2日)等についての説明がありました。

ウ 区画線工の土木工事標準単価への移行における「一日未満で完了する作業の積算方法」について(四国協会)

吉田隆敏副協会長から「区画線工の積算では国土交通省の仕様書に載っているとおり積算していただきたい。今でも年間で引いたメーター数で計算されている。本部から是非とも申し入れしてほしい。」との要望意見がありました。石井和夫路面標示委員長から「国交省は変更時これを行うと明記しているので、申し入れたらやっただけだと思っていました。县市町村にはハードルが高い計算方法で煩雑だが、是非採用していただきたい。発注者側でこの計算方法について難色を示しているときは、建設物価調査会の標示担当者へ連絡すればそちらで説明していただける。」との説明がありました。

エ 道路標識点検診断士の資格を取得することで得る利点について(四国協会)

吉田副協会長からの質問に対して、伊藤専務理事から道路標識点検診断士のメリットとして「直轄の門型以外の標識点検・診断業務の受注が可能となること、道路管理者には全ての標識について点検義務があり、今後点検対象の拡大が見込まれること」等につき説明がありました。

オ ブロック塀からメッシュ、目隠しフェンスへ移行する工事の営業活動について(四国協会)

西本光宏副協会長から「ブロック塀からメッシュ、目隠しフェンスへ移行する工事の営業活動についての事例があれば紹介したい。」との意見があり。中部支部前山支部長から、愛知県協会において開催した技術研修会において、メッシュ、目隠しフェンスへの移行の工事事例を紹介した旨の説明がありました。

カ 静岡市入江地区における生活道路の安全対策(中部支部)

山寄英二副支部長から、生活道路における信号のない交差点におけるランプ設置に伴う効果等につき説明がありました。

(5) 支部要望事項

ア 登録標識・路面標示基幹技能者の実態調査について(関西支部)

平野支部長からの「登録基幹技能者が現場でどのように活躍しているのか。」という質問に対して、伊藤専務理事から「公共工事には主任

技術者の配置が必須となり、発注者においても主任技術者の確保において一定の評価がされているものと思われる。また、元請企業における登録基幹技能者の活用状況については、ゼネコン等を中心に評価され、活用が促進されている。」との説明がありました。

イ 協会本部と各支部合同の要望活動について(関西支部)

平野支部長からの質問に対して、伊藤専務理事から国交省関係について「平成27年度から支部の要望があった場合に、本部支部合同で実施している。各整備局においては整備局長、道路部長、道路部各課長等に対し、予算獲得、分割発注、工期の平準化等について直接生の声を届けており、分割発注等では一定の成果を挙げているものと考えている。」との説明がありました。また、笠原専務理事から警察庁関係について「各県警本部に対しては原則各支部等で行うこととなっているが、支部が本部の同行を希望する場合は、極力要望に沿えるようにしたい。」との説明がありました。

ウ 公安委員会関係の道路標示の塗り替え更新予算の確保について(中国支部)

宮川支部長からの要望に対し、笠原専務理事から「道路標示予算は厳しい状況が続いているが、毎年会長、副会長が警察庁交通局長に国の補助事業予算の増額と県単独事業の充実を要望している。

新しい予算制度については、警察庁との意見交換の場において提案していきたい。」との説明がありました。また、中国地方の豪雨災害対策につき、土砂災害の特別警戒区域と警戒区域の被災エリアの地図を表示した避難喚起標識を各地域の小学校正門に掲示するボランティア活動を予定しているとの報告がされました。

エ 熱中症対策について(四国協会)

東会長から「作業中止の基準を国に示してもらうように要望できないか。」という意見に対して、陶山良介業務部長から「国土交通省、厚生労働省から発出されている通達に基づき、各種熱中症対策を講じていただきたい。」との説明がありました。

オ 路面標示用塗料のクロムフリー化について(四国協会)

東会長からの広報を求める要望に対して、笠原専務理事から「機関紙トラフィックサポーター9月号に詳細な記事を掲載したが、路面標示材協会とともに様々な場において広報に努めてまいりたい。」との説明がありました。

カ 協会員としてのメリットの明確化(九州協会)

田中賢哉福岡県支部長からの質問に対し、全標協清水会長が「全標協は技術者資格制度の構築、関係官庁への予算確保、分割発注要望活動、機関紙発行等様々な活動を行っており、このような活動を推進していくためには高い組織率を有する業界団体が業界と一体になって活動することが不可欠であり、一定の予算が必要であることにご理解いただきたい。」と説明されました。

「登録基幹技能者の価値の向上」については、伊藤専務理事から「登録基幹技能者は、国レベルではある程度周知が図られているが、県レベルでは認知度が低い。いかに認知度を高めていくかの活動が重要である。全標協本部では建専連などと連携し、国交本省や各整備局に繰り返し活用をお願いしているが、各支部においても国交省の事務所や地方公共団体への働きかけを是非お願いしたい。」との説明がありました。

「交通安全施設工事業として建設業種への追加」については、本多茂技術部参事から「業種認定については建設業法第2条の改正が必要である。何度か申請をあげているが、交通安全施設工事業というと道路照明、信号機が入ってくるので、標識・標示だけを交通安全施設業というように形でくくることはできないと国交省からいわれている。今後とも専門工事業の独自性というものの資料を整えていこうと思っている。」との説明がありました。

「登録基幹技能者更新講習の実務経験年数(10年ではなく5年ではだめなのか)」については、倉田紀久夫業務部次長から「本年4月から登録基幹技能者については主任技術者として認定されるようになったが、平成29年以前の標識・標示の基幹技能者講習修了者には両方の経験年数を合算することで講習の受講資格を満たした方がみえるので、更新講習において主任技術者と認定するためには、それぞれの経験年数が10年必要であることから当該証明書の提出をお願いしている。」との説明がありました。

キ 自社での交通誘導について(九州協会)

田中福岡県支部長から「警備員不足から自社での交通誘導ができないか。」という要望意見があり、陶山業務部長から「自家警備の配置を検討する場合には、警備業者や関係団体、警察当局等とも連携のうえで、交通誘導業務を含む建設工事の安全が十分に確保されるよう、現場条件や資格要件等の配置条件の整理を行うこととなっており、自家警備については都道府県単位の交通誘導員対策協議会の場で検討が行われ

るものとされている。」との説明がありました。

ク 土木工事標示運単価の区画線消去について(沖縄協会)

安里会長から「区画線消去の削取り式は発生した汚泥等の処分費は含む、ウォータージェット式は別途計上とあるが、処分費は別途計上に変更できないか。」という要望意見に対して、石井路面標示委員長から「処分費を含めた方が金額的に高いと思われる。物価調査会でお話させていただいたところ、県単位での対応が不可能ではないといわれているので、物価調査会に相談願いたい。」との説明がありました。

ケ 外国人材の受入れについて(沖縄協会)

安里会長からの質問に対し、笠原専務理事から技能実習制度の概要と新たな在留資格制度の案についての説明があり、「外国人受け入れに伴う様々なコストを負担してまで受け入れるべきなのかということを検討していかなければならない。」との説明がありました。

コ 標識・標示を活用した災害対策について(中部支部)

本多徹路面標示副委員長から「地震津波に限らず、豪雨等の災害対策においても、標識・標示を活用した避難場所誘導等の災害対策での予算獲得を関係官庁に働きかけていただきたい。」との要望意見がありました。

(6) 閉会宣言

中部支部山崎副支部長により閉会が宣言され、その後懇親会が開催されました。



3 会議を終えて

本会議では、本部の提出議題に対し出席者から積極的に質問、要望が出されたほか、各支部の提出議題、要望事項等につき活発な意見交換が交わされ、2時間の予定時間を超過するほどでした。

会議終了後は懇親会が行われ、そこでも積極的な意見交換が行われました。翌日は、少し風が強かったものの、絶好のゴルフ日和で会員相互の親睦を深めることができました。また伊勢神宮へ参拝された方もいましたが、有意義な日を送られたことと思います。

終わりに、本会議開催にご協力いただいた全標協本部をはじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年度道路標識点検診断士研修 合格者名簿

合格番号	支部名	氏名	資格区分	会社名
0001	北海道	佐藤 由行	一級土木	山田塗装株式会社
0002	東北	成田 誠治	一級土木	株式会社永澤興業
0003	東北	八木澤 晃	一級土木	株式会社永澤興業
0004	東北	中里 真人	一級土木	株式会社トウショー
0005	東北	山下 浩一	一級土木	協積産業株式会社
0006	東北	立花 建治	一級土木	岩手標識株式会社
0007	東北	田邊 正昭	一級土木	岩手標識株式会社
0008	東北	坂本 望	一級土木	株式会社イクスル
0009	東北	田上 朝一	一級土木	株式会社三伸鋼機
0010	関東	湊谷 真樹	一級土木	株式会社クニハル
0011	関東	樋渡 亮	一級土木	日本リーテック株式会社
0012	関東	五十嵐孝幸	一級土木	日本リーテック株式会社
0013	関東	浜田 昇	一級土木	株式会社アーバンロード
0014	関東	下條 文弘	一級土木	サンコーライン株式会社
0015	関東	稲村 尚人	一級土木	株式会社中井産業
0016	関東	上沢 昌幸	一級土木	正和産業株式会社
0017	関東	一色 計朗	主任技術	株式会社アークノハラ
0018	北陸	山本 和弥	一級土木	丸山工業株式会社
0019	中部	西村 太志	一級土木	有限会社アイロード
0020	中部	黒 秀章	一級土木	中部ライン株式会社
0021	中部	堀口 慎吾	一級土木	株式会社東亜製作所
0022	中部	額額 瞬	一級土木	株式会社東亜製作所
0023	関西	河谷 久雄	一級土木	太陽工業(株)
0024	関西	辻 優	一級土木	近畿安全施設株式会社
0025	四国	横谷 勝治	一級土木	玉藻塗装株式会社
0026	四国	山崎 大介	一級土木	西日本ロード施設株式会社
0027	四国	八束 敏泰	一級土木	瀬戸内ライン工業株式会社
0028	四国	砂川 修一	一級土木	株式会社協和産業
0029	四国	藤崎 大造	一級土木	株式会社協和産業
0030	四国	大崎 一輝	主任技術	有限会社保安技建
0031	沖縄	伊保 恒次	主任技術	新星株式会社

大阪府知事への要望活動について

全標協関西支部事務局長 辻野 善久

1 はじめに

全標協関西支部と大阪府協会は、平成30年8月9日、関西支部平野好昭支部長、大阪府協会村瀬孝雄会長らが大阪府竹内廣行副知事を訪問し、支部長と府協会会長連名の知事への要望書を提出しました。

本件要望活動には、大阪府都市整備部交通道路室の幹部、大阪府議会のみつぎ浩明議員、しかた松男議員、田中一範議員も同席されました。

2 要望活動の概要

(1) 要望の要旨

① 老朽化する道路標識及び路面標示の改善について

高度経済成長期に整備された道路及びその附属物は老朽化しており、特に道路標識及び路面標示の老朽化が著しい。

道路標識や路面標示は、ドライバー、歩行者等の道路利用者の安全と道路交通の円滑を図るために、極めて重要な安全施設である。

大阪府では、平成28年2月に道路照明灯が根元部の腐食により倒壊している。道路標識は重量が大きく、倒壊となると大惨事が予想される。

インバウンドが増加し、諸外国からの来阪は年々拡大しており、また、大阪万博が実現すれば、さらに多くの外国からの来阪が予想される。そこで、大阪の道路標識、路面標示の早期の改善を要望する。

② 一般道の108系標識への高速道路ナンバリング表記について

標識令の一部改正に伴い、高速道路上の標識だけではなく、一般道の標識に高速道路ナンバリングを導入することとなっている。大阪府においても、早期に取り込まれることを要望する。

(2) 要望時の説明資料

関西支部では、大阪府が管理する国道170号（外環状線）、府道2号（中央環状線）の一部区間の道路標識、路面標示の老朽化の実態を調査し、80頁に資料化しており、これを基に説明を行いました。



(3) 懇談状況

要望活動後の懇談においては、副知事から道路管理者としての道路管理の基本的な考えや今後の方針が述べられました。また、各府議からは、交通安全施設にまつわるエピソードが紹介されたほか、案内標識や規制標識の設置者区分の質問、交通安全施設管理の疑問点、道路管理者・交通管理者に対する意見要望等も出されました。



竹内副知事に要望書を提出する支部長、府会長ら

平成30年度「優秀施工者国土交通大臣顕彰」 「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰」

当協会から8名のマスターが誕生

国土交通省では、建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事されている方々に誇りと意欲を持っていただくとともに、これらの方々を広く国民に知っていただき、その社会的地位・評価の向上を図っていくことを目的として、特に優秀な技術・技能を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をされている建設技能者の方々を対象として、優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）を実施しています。

また、次世代の建設現場の担い手を確保・育成すること、建設マスターに達するまでの技術・技能の向上を図ることを目的として、優秀な技術・技能を

持ち、今後さらなる活躍が期待される青年技能者の方々を対象として、青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰（建設ジュニアマスター）を実施しています。

当協会からは建設マスター5名、ジュニアマスター3名、計8名の方々が選ばれ、10月5日（金）に東京のメルパルクホールにて開催された式典で、石井啓一国土交通大臣及び野村正史土地・建設産業局長から顕彰状の授与が行われました。

新たに建設マスター、ジュニアマスターとなった8名の皆様、おめでとうございます。



建設マスター
岡 壯一 氏
道路標識設置工
光和産業(株)
東北



建設マスター
池野 勝二 氏
塗装工
北国道路標識(株)
北陸



建設マスター
片平 訓之 氏
道路標識設置工
セイトー(株)
中部



建設マスター
山下 唱英 氏
道路標識設置工
ロードテック(株)
関西



建設マスター
戸田 光昭 氏
道路標識設置工
愛媛交安(株)
四国



建設ジュニア
マスター
高橋幸太郎 氏
塗装工
岩手標識(株)
東北



建設ジュニア
マスター
新井 理史 氏
塗装工
(株)日装エステー
関東



建設ジュニア
マスター
勝見慎太郎 氏
道路標識設置工
(株)佐藤興商
中部

路面標示ハンドブック等の改訂版を発刊

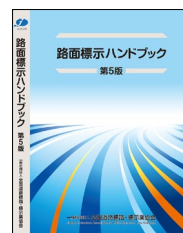
全標協が編集発行している「路面標示ハンドブック」及び「路面標示施工技能検定学科試験の手引」は、路面標示委員会（石井和夫委員長）が中心となって改訂作業を進めていましたが、この度改訂版が発刊されました。

路面標示ハンドブックは、昭和58年に初版が発行されました。その後、平成10年に第2版、平成13年に第3版、平成24年に第4版が発行され、今回の第5版は6年ぶりの発行となります。

今回の改訂版は、JIS規格が改正された路面標示用塗料の品質（鉛クロムフリー化）を掲載したほか、「路面標示の維持管理」を充実させました。路面標示ハンドブックは、全標協が富士教育訓練センターにおいて実施している登録標識・路面標示基幹技能者講習で使用されるほか、発注者等の関係官庁、会員企業等において幅広く活用されています。

路面標示施工技能検定学科試験の手引は、国（厚生労働省、中央及び都道府県職業能力開発協会）が実施し、全標協（本部及び各支部）が協力している国家検定制度の「路面標示施工技能検定」（学科試験及び実技試験）

のテキストとなるもので、4年ぶりの発刊となります。



【価格】

「路面標示ハンドブック第5版」15,000円

（会員価格 12,500円）

「路面標示施工技能検定学科試験の手引」2,500円

（会員価格 2,000円）

※価格はいずれも税抜き。送料は全標協が負担します。

北欧 (フィンランド・ノルウェー) の旅

全標協監事 上田富久

北欧4か国のうち、今回はフィンランド (ヘルシンキ) とノルウェー (ベルゲン、オスロ) を6月1日～8日の6泊8日で旅してきた。ヨーロッパと言えばフランス、イタリア、スペイン等中央ヨーロッパに行かれる人が多いが、今回は氷河が生み出したフィヨルドと世界遺産のブリッゲン等の歴史ある町並みを巡る北欧をテーマに旅のルートを選んだ。

最初の都市ヘルシンキは、日本から一番近いヨーロッパと言われていて、成田からは直行便で約9時間半という近さ。ここはフィンランドの首都で人口約57万人、中心部はトラム (路面電車) がほぼ全域をカバーするため、見どころを効率よく回るには利用価値が高い。北欧の主な都市を観光する際にはそれぞれの都

市が観光客向けに発売しているお得な都市名のカードがある。ここではヘルシンキカードがそれである。公共交通機関はもとより、主な観光施設の入場料も無料で利用できる優れたもの。一日券で48ユーロだった。

トラムを利用し、ヘルシンキ大聖堂、ウスペンスキ寺院、マーケット広場、シベリウス公園、ムーミン美術館等の施設を観光した。

たまたま、建国100年を祝う行事が催されていて、ヘルシンキ大聖堂前の広場では、陸軍の戦車等が展示されていた。



トラム



ヘルシンキ大聖堂



ヘルシンキ大聖堂前広場



マーケット広場



航空ショー

フェリーで世界遺産のスオメンリンナ島へ渡り博物館や戦争時に使用した大砲や砲台等を観光していると、突然上空に戦

闘機が爆音と共に現れ、航空ショーが始まった。

ヘルシンキ空港からスウェーデン (ストックホルム) 経由でノルウェーのベルゲンへ。

26年前、全標協主催第2回海外研修でオスロ、ベルゲンは一度訪問していたが、その当時の閑静なイメージが一変、観光客の多さには驚いた。

当時の視察スケジュールは、オスロからラルダールへ、ラルダールからフィヨルド観光しながらベルゲンへの視察だった。

今回は、ベルゲンからオスロへの逆コースである。

前回の旅で、ケーブルカーで登ったフロイエン山山頂から見たベンゲンの町の夜景を楽しみにしていたら、空港から市内に向かうバスの中で日本人の女性ガイドさんと席を隣り合わせになり、いろいろベルゲンの事を聞いてみると、今の季節はちょうど白夜で、夜景は見る事が出来ないと聞きがっかりした。

ノルウェー第二の都市ベルゲンは、入り組んだ海岸

線のそばまで山が迫り、平地には木造の家屋が密集していて、山肌にはカラフルな色の家が立ち並び非常にきれいな町である。また、先ほど述べたケーブルカーで登るフロイエン山山頂からは町全体が眺められる。その眺望は函館を彷彿とさせた。



山肌に立ち並ぶ民家



フロイエン山山頂からの眺め



世界遺産の木造倉庫 “ブリッゲン”

次の日、ベルゲンの中心地にある、ユネスコの世界遺産“ブリッゲン”を散策した。奥行きのある倉庫群は建物の隙間を入ると迷路のようになっている。また、お土産ショップや工芸品の工房もあり見応えがあった。



魚市場（ベルゲン）

港のそばの魚市場に行くと、とれたてのサーモン、エビ等が店頭に並び、注文をするとその場で料理をしてくれ、新鮮な魚介類を比較的リーズナブルな価格で美味しくいただいた。



歳のせいか歩き疲れたので、観光案内所前から乗車できるベルゲン観光バスツアーを利用することにした。ベルゲン港沿いを約1時間で巡り、イヤホンによる日本語ガイドが聞けるので、歴史的建造物の数々等を興味深く観ることができた。

次は、休む間もなくコーデー・ベルゲン美術館巡りへと向かった。

美術館は4つの建物に分かれていて、それぞれコーデー 1～4と呼ばれている。

コーデー 3は、18・19世紀のノルウェーの美術作品が並び、特にムンクの作品が多数ある。また、コーデー 4には、ピカソ、ミロの作品が展示してあり、フラッシュ無しであれば撮影が可能なので、心おきなくその作品を撮影した。作品を目の当たりにすると“素晴らしい”の一言しか出ない。

旅も5日目に入り、いよいよ大自然が織りなすフィヨルドクルーズの始まりである。



ベルゲン中央駅

ベルゲン中央駅からベルゲン急いで約1.5時間、フィヨルドの中継の町ヴォスへ。

ヴォスからはバスの移動に変わり、約1.5時間でグドヴァンゲンへ。バスの移動中も絶景な滝等もあり、少しずつフィヨルドに近づいているのがわかった。

ヴォスからはバスの移動に変わり、約1.5時間でグドヴァンゲンへ。バスの移動中も絶景な滝等もあり、少しずつフィヨルドに近づいているのがわかった。



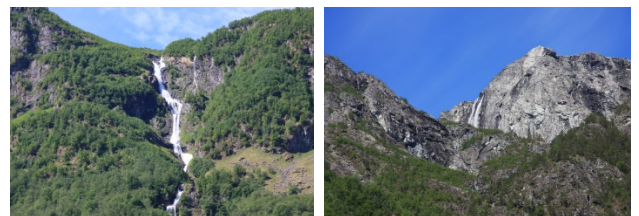
フェリー「THE FJORDS 号」

グドヴァンゲンからフェリーでフロムまでの2時間の世界遺産クルーズの始まりである。

はるか何百年前に氷河が浸食を繰り返して岩山を削り、海岸から海水が深く入り込んででき、入り江からの全長は約204km、周囲には標高1,700mを超える山々が連なり、最深部の水深は約1,300mと世界最大のフィヨルドである。（ソグネフィヨルド）

はるか何百年前に氷河が浸食を繰り返して岩山を削り、海岸から海水が深く入り込んででき、入り江からの全長は約204km、周囲には標高1,700mを超える山々が連なり、最深部の水深は約1,300mと世界最大のフィヨルドである。（ソグネフィヨルド）

クルーズが始まり絶景の別世界の大自然、途中では崖からほとばしる大小の滝が流れ、素晴らしいの一言である。



フィヨルドでの大自然



大自然の入り江にたたずむ村

また、大自然の中の入り江に小さな村々があり、一見箱庭のように美しくかわいい景観に感激した。あっという間にクルーズ終点のフロムに着いた。

フロムでは、大型豪華客船が停泊していて、フィヨルドの雄大さを再認識した。



大型豪華客船

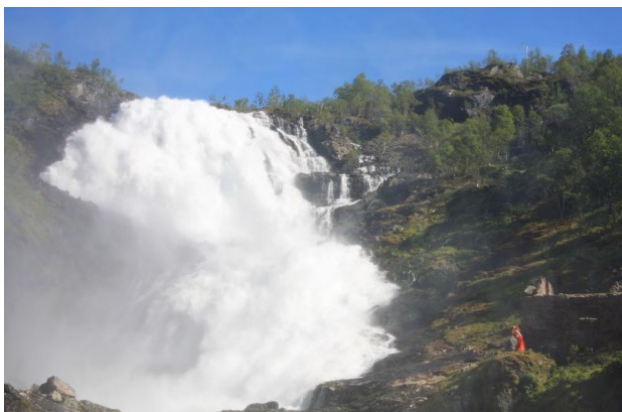
フェリーが到着したら、すぐ目の前の駅から出発するフロム鉄道に向かった。ただし、フロムでは、2時間30分ほど列車との乗り継ぎ時間があり、カフェやお土産店等を見て広場で休憩をとり、ゆったりとした時間を過ごせた。

そこに、中国人旅行者とみられる女性達が目も気にせず、大胆なポーズで写真を撮影していたのが非常に可笑しかった。



フロム鉄道

フロム鉄道は、1940年に開通した歴史ある鉄道で、フロムから山上のミュルダールまで20kmほどの急勾



ショース滝

配を約1時間かけて上り、標高の低い裾野を走って行き、途中のショース滝では、乗客のための粋な計らいで写真撮影のために暫し停車してくれた。演出も素晴らしく、滝の傍らで歌いながら踊るパフォーマンスをする女性が我々を迎えてくれた。今までこんなに近い場所からこんな大きな滝を見たことがなかった。その迫力ある飛沫ですっかり“びしょ濡れ”になってしまったが、とてもいい体験だった。

ミュルダールに到着後、オスロとベルゲンを結ぶベルゲン急行に接続、いざ最終目的地オスロへ。オスロには22時30分に到着。その足でホテルへ。



ベルゲン急行

オスロは、ノルウェーの首都で人口約66万人、ノルウェー最後のヴァイキング王ハーラル・ホールローデ王によって開かれた町である。

美しい自然とアートの調和した町歩きが楽しい都市である。

この町の市内交通は、トラム(路面電車)、市バス、地下鉄、フェリー全てゾーン制の均一料金。観光での移動は一つのゾーンで収まる。ここでもヘルシンキカード同様にオスロパス1日券を購入。

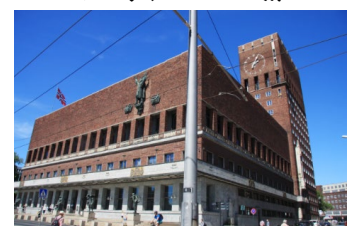
この町では、ムンク美術館、アーケシュフス城、歴史博物館、オスロ市庁舎を観光した。

ただ、ムンクの「叫び」、「思春期」等の作品がある国立美術館は館内改装中のため閉館しており、誠に残念であった。

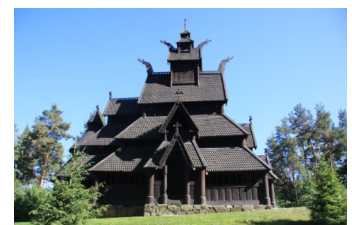
ビグドイ半島にあるノルウェー民俗博物館、ヴァイキング船博物館には、フェリーを利用しての観光をした。



アーケシュフス城



オスロ市庁舎



ノルウェー民俗博物館



ヴァイキング船博物館

ここで、各都市の道路標識・路面標示を紹介しよう。
(ヘルシンキ)



追越しのための右側部分はみ出し通行禁止線



速度 30 マイル (約 50km に相当)



横断歩道 (標識)

(ベルゲン)



横断歩道



指定方向矢印



案内標識

(オスロ)



規制標識 (進入禁止)



軌道敷マーク



環状交差点 (標識)

最後に、旅を振り返ると、北欧の街並み、美術館巡り、フィヨルドの大自然と充実した旅であった。

お知らせ

お詫びと訂正

○2018年9月号(No.334)の「お知らせ」において道路開発(株)代表取締役佐藤夕里江さんのお名前を佐藤夕理江と誤って記載しておりました。お詫びして訂正いたします。

組織変更

○丸杉建設(株)→(株)丸杉 (中部支部)

代表者変更

○辻元塗工(株) (北海道協会)

代表取締役 那須野 福茂→那須野 憲悟

○北海道道路産業(株) (北海道協会)

代表取締役社長 藤巻 淳夫→藤巻 俊一

○(株)北海道ロードサービス (北海道協会)

代表取締役 本多 誠司
→代表取締役会長 本多 誠司

○大平企業(株) (東北支部)

代表取締役 平 栄輔→平 浩樹

○カンセイ工業(株) (関東支部)

代表取締役 関田 稔→飯島 寛己

○茨城ライン(株) (関東支部)

代表取締役 吉田 二男→吉田 賢司

○アトムテクノス(株)名古屋営業所 (中部支部)

所長 竹内 勇樹→城井 康彦

○信号器材(株)名古屋営業所 (中部支部)

所長 伊藤 隆文→阿部 雄二

○山崎工業(株) (中部支部)

代表取締役 古川 定美→古川 洋司

○ミカドコーポレーション(株) (九州協会)

代表取締役社長 小西 竹丸→田中 穰治

広報・教育委員会委員

(トラフィックサポーター編集担当)

委員長 松村みち子

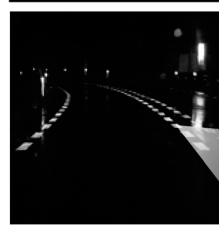
委員	石川 盛昭	梅野 秀明	太田 昭雄
	岡根 隆資	岡本 力	小畑 啓一
	笠原 孝志	鎌田 洋一	菰田 潔
	須藤 和彦	大上戸文男	辻野 善久
	中谷 一成	本田 智	本田 恵式
	前田 年輝	矢野 勝彦	(五十音順)

事務局 村上 寿一

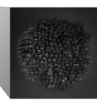
夜間の安全走行を
サポートする3Mの
テクノロジー

3M Japan Group
スリーエム ジャパン株式会社
トランスポート・ソリューション セーフティ事業部
〒141-8684
東京都品川区北品川6-7-29
http://www.mmm.co.jp/ref/

3M™ 全天候型溶融式路面標示材
3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)



AWTは雨天時用の反射エレメントと大粒径ガラスビーズを混合した特殊反射素子を散布することにより、雨天時・晴天時ともに優れた視認性を提供します。



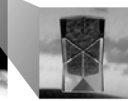
特殊反射エレメント

カスタマーコールセンター
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで
0570-012-123
ナビダイヤルは市内通話料金でご利用いただけます。
受付時間/8:45~17:15 月~金(土・日・祝・年末年始は除く)
3M、ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³
超高輝度反射シート(広角プリズム型フルキューブ)



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シートは、マイクロリプリケーション(高精細表面)技術によってほぼ100%の反射面をもつ夜間でも明るく見やすい、反射シートです。



フルキューブ(DG³)

